

中部の

エネルギーを 築いた



製糸王・越 寿三郎の 電力と化学事業

明治、大正時代から昭和の初期にかけて日本産業革命の先駆で近代化を支えてきた製糸産業、長野県須坂市は群馬県の富岡製糸場や同じ長野県岡谷市の製糸工場など生糸と共に発展してきた。

後に製糸王と言われた越寿三郎は、1887(明治20)年に須坂市に山丸製糸場を造った。そして1894(明治27)年に多くの製糸工場を集め製糸結社・俊明社の取締役社長に就任し、高い品質の生糸で価格も安定させ、小さな会社が倒産しないよう努力した。

1903(明治36)年、信濃電気株式会社(資本金：20万円)を設立、米子発電所(出力：120kW)を建設し、当時水車による動力主体の製糸業を、電力主体に変え合理化を図り、電気事業に進出した。

また電力利用拡張策としての化学事業があった。越 寿三郎 1865(慶応元)年～1932(昭和7)年 須坂市立博物館にある越寿三郎の胸像]

信濃電気は1906(明治39)年、現在長野電鉄信濃吉田駅付近にカーバイド製造の吉田炭化石灰工場を新設した。このカーバイド生産が利益を上げたので1918(大正7)年に柏原カーバイド工場を建設し増産を図った。

1926(大正15)年、信越窒素肥料㈱が日本窒素と信濃電気との共同出資により設立され、社長に越寿三郎が就任した。この会社が1940(昭和15)年に社名を信越化学工業㈱と改称した。今月号は、製糸、電力、化学事業に多大な功績を挙げ貢献した越寿三郎を紹介する。



1 山丸組製糸などの製糸事業

越寿三郎は1865(慶応1)年、須坂の豪農・小田切家の3男に生まれ、20歳の時に越家の養子になった。

1887(明治20)年に山丸製糸場を造り、多くの製糸工場を集めて山丸組を結成した。その後、事業を各地に拡張し埼玉県に大宮工場、愛知県に安城工場、新潟県に村上工場などを設立し操業していった。

当時の生糸は高級な絹織物の原料のため、その需要は経済動向に左右されやすく、大半が外国向けの輸出品でうまく当たれば利益が大きく外れると莫大な損失を被った。このため小規模の製糸業が集まり明治27年に俊明社製糸結社を造った。さらに製糸事業の拡大に向けて1918(大正7)年、当時の大日本蚕糸会顧問であった渋沢栄一の仲介により、大

倉財閥の大倉喜八郎と共に㈱大倉製糸所を設立し、大倉が取締役社長に、越が副社長に就任した。このようなことを積み重ねて生糸の輸出は飛躍的に増大し、大量の生糸がアメリカをはじめとする欧米諸国に輸出された。

1929(昭和4)年10月、ニューヨークのウ

オール街で株価が大暴落し、世界大恐慌が起きると、日本経済は大打撃を受けた。それまで繁栄の一途をたどってきた製糸業は、世界経済の変動をまともに受け、昭和5年に山丸組は倒産し、解散した。

2 信濃電気(株)などの電気事業

1903(明治36)年、信濃電気(資本金：20万円、取締役社長：越寿三郎)が設立され、米子川に米子水力発電所(出力：120kW)を建設し、長野県須坂市から長野市あたりまで送電した。

当初は製糸工場などへの照明だけであったが、次第に動力の電力として利用され、蒸気の時代を経ずに一気に電力化を促進する大きな役割を担った。そして1900(明治33)年に設立され東信地方に供給していた上田電灯㈱を1911(明治44)年に合併した。

一方、長野県下初の電気事業として長野電灯(資本金：45,000円、取締役社長：小坂善之助)が1898(明治31)年、裾花川に茂菅発電所(出力60kW)を建設し長野市へ電気を供給していた。

このため両社の間で厳しい競争が展開されたが、1910(明治43)年、長野県知事の仲介で供給区域の協定が成立した。その内容は長野市内における電気施設、高圧線、配電所をはじめ市内の営業権などを長野電灯が買収し、年間最低200kW最高1,000kWの電力を信濃電気から買い受ける契約であった。

このような経過で信濃電気は新潟県県境方

面へ発電所を建設し販路の拡大策とっていた。

この時代、越が関わった会社によって開発され、現在も運転されている発電所は、東京電力に移管された霞沢発電所、中部電力に移管された横沢第1・第2、樽川、鳥居川第1・第2・第3・第4、武石、藤平第1・第2、東北電力に移管された高沢、杉野沢、西野発電所など、14カ所、79,200kWに達した。このほか廃止された畑山、米子発電所があった。(資料1：越寿三郎が関わった会社が開発した発電所)

1930(昭和5)年、製糸事業が行き詰まったため、1937(昭和12)年、長野電灯と信濃電気は対等合併し、商号を長野電気㈱と改めた。



須坂市春木町南の交差点にある
信濃電気発祥の地の碑

3 信越窒素肥料(株)などの化学事業

信濃電気㈱は電力利用の拡張策としての化学事業があった。1906(明治39)年、現在の

長野電鉄信濃吉田駅付近にカーバイド製造の吉田炭化石灰工場を新設した。このカーバイ

ド生産が大きな利益を上げていったので、新潟県妙高高原町に杉野沢発電所、長野県木島平村に樽川発電所、長野県信濃町に鳥居川発電所を建設していった。一方1919(大正8)年には、現在のしなの鉄道黒姫駅近くに柏原工場を建設しカーバイドの増産を図っていった。

このように ①発電所を建設 ②送電された電力を利用しカーバイドを生産 ③桑畑の生産を高めるため窒素肥料の製造へと、積極経営を進めていった。

これらの発電所から電気を利用して、カー

バイドの生産を行い、窒素肥料の製造を始めた。そして1926(大正15)年、信濃電気㈱と日本窒素㈱の製造設備と技術の現物出資の共同出資により信越窒素肥料㈱(資本金：500万円、取締役社長：越寿三郎)が設立され、1940(昭和15)年、社名を信越化学工業㈱と改名した。そして新潟県上越市に直江津工場の建設を計画し、1927(昭和2)年からカーバイド・電極・電気製鋼・木材乾留などの生産を開始し、吉田・柏原工場のカーバイドなど全化学事業を移転させた。

4 公益事業などへの功績

越寿三郎は生糸同業組合の組合長をはじめ、1895(明治28)年、製糸業の円滑な資金調達を図るため上高井銀行を設立した。同行は、高井銀行、六十三銀行、第十九銀行へ引き継がれ、現在の㈱八十二銀行に発展した。また、1926(大正15)年、私立須坂商業学校を創立、顧問として次男の泰蔵を校長にすえた。その後同校は、校名の改称、学制改革などを経て、現在の長野県立須坂商業高等学校になった。

須坂市は明治、大正、昭和時代の初期において、日本の産業革命の先駆をなした製糸業で繁栄した町で、当時の土蔵造りの家並みが良く残っている。この一角に国の登録有形文化財になっている旧越家住宅などがある。このように各界公益事業に貢献し製糸王と呼ばれるようになり、1930(昭和7)年に69歳で他界した。

資料1：越寿三郎が関係・開発した発電所

No	発電所名(所在地)	竣工年	出力	概要
1	畑山発電所 (長野県上田市)	1901 (明治34年)	220kW	①上田電灯が出力60kWを建設 ②1966(昭和41)年廃止
2	米子発電所 (長野県須坂市)	1904 (明治37年)	120kW	①信濃電気が出力120kWを建設 ②1922(大正11)年廃止
3	高沢発電所 (長野県信濃町)	1906 (明治39年)	19,000kW	①信濃電気が出力300kWを建設 ②1926(昭和1)年増設 ③1988(昭和63)年増設
4	横沢第1発電所 (長野県上田市真田町)	1911 (明治44年)	900kW	①信濃電気が出力450kWを建設 ②1929(昭和4)年840kWに増設 ③1996(平成8)年900kWに増設

5	横沢第2発電所 (長野県上田市真田町)	1928 (昭和3年)	290kW	①信濃電気が出力280kWを建設 ②1992(平成4)年290kWに増設
6	杉野沢発電所 (新潟県妙高市)	1919 (大正8年)	6,600kW	①信濃電気が出力6,600kWを建設
7	樽川発電所 (長野県木島平村)	1923 (大正12年)	2,200kW	①信濃電気が960kWを建設 ②1930(昭和5)年1,700kW、1958(昭和33年) 2,100kW、1984(昭和59)年2,200kWに増設
8	鳥居川第1発電所 (長野県信濃町)	1925 (大正14年)	1,600kW	①信濃電気が1,500kWを建設 ②1990(平成2)年1,600kWに増設
9	鳥居川第2発電所 (長野県信濃町)	1928 (昭和3年)	2,000kW	①信濃電気が出力2,000kWを建設
10	鳥居川第3発電所 (長野県信濃町)	1928 (昭和3年)	2,100kW	①信濃電気が出力2,000を建設 ②1988(昭和63)年2,100kWに増設
11	鳥居川第4発電所 (長野県信濃町)	1930 (昭和5年)	800kW	①信濃電気が出力670kWを建設 ②1998(平成10)年750kWに増設 ③2003(平成15)年認可出力800kWに変更
12	藤平第1発電所 (長鉄第1) (長野県山ノ内町)	1926 (大正15年)	650kW	①長野電鉄が出力650kWを建設 ②1992(平成4)年中部電力に譲渡
13	藤平第2発電所 (長鉄第2) (長野県木島平村)	1926 (大正15年)	930kW	①長野電鉄が出力930kWを建設 ②1992(平成4)年中部電力に譲渡
14	武石発電所 (長野県上田市)	1926 (大正15年)	200kW	①信濃電気が出力200kWを建設
15	霞沢発電所 (長野県松本市)	1928 (昭和3年)	39,000kW	①梓川電力が建設 ②この発電所から上高地一帯を供給
16	西野発電所 (新潟県妙高市)	1929 (昭和4年)	3,000kW	①信濃電気が出力3,000kWを建設

出典：設備概要をもとに作成

(寺澤 安正)